

令和元年 11 月 26 日

地域医療構想にかかる再検証対象医療機関の公表に対する  
済生会湘南平塚病院の見解と今後の対応

済生会湘南平塚病院  
院長 赤星 透

1. 再検証対象医療機関の公表に対する当院の見解

(1) 当院に関わる公表内容について

厚労省「第 24 回地域医療構想に関する WG」が発表した急性期医療に関する分析報告（資料 1、抜粋）において、当院は A 項目（政策医療に関わる 9 領域における診療実績）と B 項目（構想区域内に類似かつ近接した医療機関のある）の 2 項目について再評価対象施設に指定された。

① 公表に使われた資料と現状との差異

当院は平成 29 年 7 月 1 日に新病院に移転し、名称も平塚病院より湘南平塚病院に変わり、許可病床数も 114 床から 176 床となった（資料 2）。新病院開院時においては、診療報酬上の取り扱いは旧病院からの遡求扱いであったため、新病院の 3 病棟 130 床は急性期機能病床（一般病床）として計上された。今回の厚労省発表の基礎となったデータにおいては、当院の診療実績は旧病院の急性期機能病床（稼働 60 床）の平成 29 年 6 月末までの 1 年間の診療実績が用いられ、病床機能報告は平成 29 年 7 月 1 日時点の報告（急性期機能 130 床）が適応された。従って、平成 29 年度の急性期機能病床の稼働率は、旧病院の診療実績 ÷ 新病院 130 床の年間稼働数により算定され、稼働率は 40%の低率であると指摘された。

以上のように、今回の評価対象となったデータは評価時点が当院の新病院移転時期と重なったことにより、現状と乖離したものになっている。

② 当院の病床機能転換の実績

当院は、平塚地域における急性期病院や地域医療機関（慢性期病床、診療所、在宅医療機関など）、老人福祉施設などを繋ぐ役割を担うことにより、地域医療に貢献することを病院の使命としている。平成 29 年 7 月 1 日に開院した新病院においては、然るべき診療実績の積み上げ期間を経て病床機能転換を予定通りに進め、平成 29 年 10 月より急性期病床 46 床と回復期病床 130 床（地域包括ケア病床 88 床、回復期リハビリテーション病床 42 床）とした。さらに、回復期リハビリテーションに対するニーズが高いことから、令和元年 9 月より、回復期機能を地域包括ケア病床 46 床、回復期リハビリテーション病床 84 床に変更した（資料 2）。

このように、今回の評価の基礎となった平成 29 年時点の状況と比較しても、当院は急性期機能から回復期機能への病床機能転換を既に積極的に進めている。地域医療構想調整会議において更なる要望や課題が提示されれば検討の余地は当然あるが、現状においては当院の病床機能を再検証する必然性は乏しいと考えている。

### ③ 当院の役割に関する地域内のコンセンサスについて

当院では新病院への移行に際しては、平塚市担当者ならびに平塚市病院事業管理者にも参加頂いた新病院基本構想策定委員会を平成 25 年 4 月に立ち上げ、新病院の在り方に関する協議を平成 27 年 12 月までの長期間に渡って積み重ね、平塚地域における関係者のコンセンサスを得た上で新病院機能を決定してきた。

### ④ 今回の検証内容と公立・公的医療機関の役割について

今回の検証は、急性期病床の削減が進まないことから、公立・公的医療機関の急性期機能を分析し、機能転換等を論議するための資料として提示されたものと理解される。A 評価項目は国が掲げる五疾病、五事業に関わる 9 領域の診療実績であり、超急性期・急性期医療や高度医療などの急性期医療を実践している病床数の多い地域基幹病院においては診療実績が多く、中小の公立・公的病院においてはその規模や診療内容から診療実績が少ないと指摘されるのは当然の結果と言える。しかしながら、急性期医療を 9 領域の医療に限定したために、比較的軽症の患者の医療は急性期医療の枠外に置かれてしまった。これは、高齢社会における地域医療の現状からは乖離した論議となっている。

今回の公表における当院の検証資料には、上述したように時期的な差異が存在していたが、適正な資料であったとしても当院の診療実績は過少であろうと推察される。また、当院に関しては、地域医療構想区域内に類似かつ近接した医療機関が存在することは地理的にも明白である。しかしながら、当院は地域に密着した急性期医療（比較的軽症の急性期患者の医療）を実践するとともに、当院と近接する病院との病病連携を通じて相互補完的な役割を果たすことにより、当該区域の地域医療に貢献していると考えている。

地域医療構想調整会議において、湘南西部地域の実情に即した論議がなされ、当院の役割に関するコンセンサスが得られることを強く希望しています。

## 2. 当院の今後の対応

当院は整形外科と内科の二つの診療科を中心として、46 床の急性期機能病床と 130 床の回復期機能病床を運用している。当院の今後の対応としては、当院の診療体制や経営改善などの内部事情に加え、地域の医療ニーズや地域医療構想調整会議を通じた地域のご意見を十分に踏まえながら、当院の急性期機能の在り方を柔軟に検討したいと考えています。